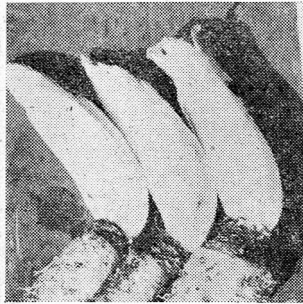




上野幌育種場から

暖冬多雪、寡雪寒冷と局地的に随分変わった様相の冬も三月の声とともに漸く春光を感ぜられる今日このごろとなりましたが、思わざる積雪で作物の雪ぐされを心配したり、また雪もなく寒風に曝された牧草の寒害を気づかかって、その対策を研究されていることと存じますが、上野幌育種場も目下のところ、目前に迫った春耕期に備えて、試験研究や、原種生産に手落ちのないよう、準備に大奮というところです。以下今年の「上野幌育種場の仕事の進め方の概要を記してお便りいたします。

(1) 飼料作物関係

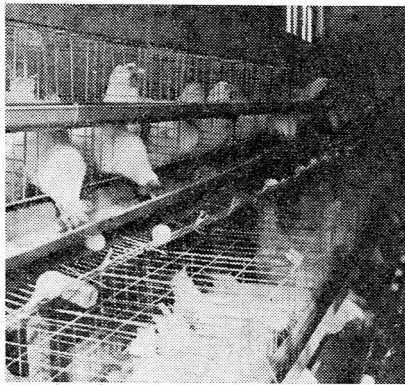


冬の新鮮野菜生産のPRの一翼を担って喜ばれているチコリー

規格の研究、さらに多数羽養鶏へ情勢に備えて、特に従来の養鶏飼料は府県と北海道と同一規格のものが、そのまま利用されていた点を改善し、真に暖地並びに寒地養鶏に合致する独特の新規格を、さらに小規模養鶏では農場残渣等(馬鈴薯、甘藷、腐豆等)と有効に併用できるもの、飼料作物や牧草を高度に利用するための鶏配等と、その地域の立地条件に充分合う新規格を製造す

飼料の省力栽培、つまり手間を省く飼料作りが農村労働力の面から強く要求されるようになってまいりましたが、この要求に合致する作物はもちろん牧草です。そこで従来は牧草と青刈作物を略対等に考えて品種改良や試験調査を進めてまいりましたが、今年からは牧草類に対してさらに大きな力を注いで行く態勢を整えております。具体的には暖地での牧草の夏がれ問題、寒冷地では夏型飼料の延長ということになります。例えは寒冷地での放牧期間の延長にしても従来のラデノクローバーのパートナとして使っていたオーチャード、ライグラスの他にメドウフェスク、またはホイートグラス、メドウフォックステール、放牧地用タイプのチモン等を利用することにより相当の延長が考えられる等、とにかく酪農家がほんとうに楽に有利な牛飼いのできるように牧草を一日も早く選定、育成したい念願を一層強めて準備を進めております。

(2) 園芸作物関係



(養鶏用配合飼料の飼養試験)

北海道の特産種子の名声を一日も早く挽回したいのが念願で、枝豆の品種改良、ほうれん草、人参、甘らん等、交配世代も相当進んで来ましたので早く完成させようとしております。温室ではチコリーの清浄芽出し栽培を行ない雪国を訪れる方々の食糧に新鮮野菜の提供とのPRにも一役買っております。

(3) 飼料分析、研究関係

伝統ある乳牛配合も多頭飼育化や、飼料構造の改善進歩にマッチする乳配をと、新

お知らせ

● 今月号より新たに「会社だより」欄を設けました。上野幌育種場、藤の沢農場、千葉農場、江別飼料工場、松戸工場、札幌種子工場の近況などお知らせいたします。とくに上野幌育種場、千葉農場の飼料作物育種、栽培試験並びに家畜飼養試験の進捗状況、最新式オートメーション新飼料工場(江別)など興味深いものと思えます。御期待下さい。

● 来月号より、更に読者とのつながりを強固にするため「読者のページ」欄を設けます。質疑応答、ローカルニュース、本誌に対する御意見などお伝え下さい。

飼料作物栽培利用、家畜飼料などについての御質問は御回答いたしておりますが、時期的に緊急を要しない質問や一般的な質問は読者のページから御回答いたします。御手紙下さい。

るための研究、分析の態勢を強化するために飼養試験動物の導入を行なっております。飼料作物種子とともに愛され、喜ばれる配合飼料をもと、乳牛二〇数頭(ジャージー種も含み)鶏約一、〇〇〇羽(ケージと平飼い)で著しく準備を進めております。どうぞ今年も春から順調で豊かな年でありませう祈念しております。(みうら)